

1 家庭科を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識や技術を習得し、これからの自分の生活を豊かにする。

・家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。

・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身につける。

・自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

食に関する基礎的な知識や技術を生活の中に取り入れ生かしていく能力や態度を育てる。

家庭の機能やはたらきについて学習し、自立した生活者としての基礎とする。

3 使用教材と持ち物

使用教材	教科書（東京書籍） A4ファイル 技術・家庭ハンドノート（家庭分野）	持ち物	教科書 A4ファイル 技術・家庭ハンドノート（家庭分野）
------	--	-----	------------------------------------

4 学習の取り組み方

学習の進め方	<確かな学力を身につけるには> ○学習課題をしっかりとらえ、興味を持って取り組む。 ○わからないところや、できないところを明確にして、学習に取り組む。 ○何事にもじっくり考えて、自分にできる精一杯の工夫をする。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なことにも挑戦する。 ○実習などは、安全に気をつけて取り組む。 ○学習したことを家でも実施し、日常生活に取り入れる。 <期末テスト> ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておく。 ○期末テスト後には、間違えた問題をしっかりと理解するようにする。 ○粘り強く学習に取り組む。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整する。
学習上の注意等	○週1の時間しかないので、チャイムが鳴る前に着席し、教科書を開けて前時の復習をしている。 ○学習に必要な物を忘れないこと。 ○実習は、目的・方法をよく理解し安全に気をつけ、工夫して取り組む。 ○グループで行うときは、仕事を分担し、能率良く協力する。 ○実習の時の準備・後かたづけなど特別教室の使い方について気をつける。

5 1年間の学習計画

学期	月	単元計画	試験
前期	4	私たちの食生活 健康と食生活 ・食事の役割と朝食 ・健康によい食習慣 ・栄養素の種類と働き	期末テスト
	5		
	6	中学生に必要な栄養を満たす食事 ・中学生に必要な栄養 ・6つの食品群 ・食品群別摂取量のめやす ・計画的な食事	
中期	7	献立作り	
後期	9	食品の選択と購入 ・食品の選択と購入	学年末テスト
	10	・生鮮食品について ・加工食品について	
	11	・食品の保存と食中毒の防止	
	12	日常食の調理 ・調理の基本 ・野菜の調理 ・肉の調理 ・魚の調理	
	1	日本の食文化 ・地域の食材 ・地域の食文化	
	2	持続可能な食生活 ・食の安全 ・食料自給率 ・食品の廃棄	
	3		

6 評価について

評価の観点		評価の方法
主体的に学習に取り組む態度	○食事の役割や健康との関わりについて関心を持つことができる。 ○食品に含まれる栄養素について関心を持って学習に取り組むことができる。 ○日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得することができる。 ○食品の栄養的特質について関心を持ち、献立を考えることができる。 ○食料や環境問題について関心を持つことができる。 ○粘り強く学習に取り組むことができる。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整することができる。	行動観察 挙手・発表 プリント課題の提出
	思考・判断・表現 ○食事点検から課題を見つけ、その解決を目指して食事の取り方などについて考え、工夫することができる。 ○材料の切り方、調味、材料の取り扱いなど工夫したり、自分なりの方法を考えている。 ○調理の手順や時間を考慮して、能率の良い作業を工夫することができる。 ○献立の条件をもとに身近な食品で献立を工夫することができる。 ○地域の行事に興味を持ち、積極的に参加する。	行動観察 プリント課題の提出
知識・技能	○家庭の働きや、社会とのつながりについて理解できる。 ○五大栄養素の種類と働きについて理解できる。 ○食品の栄養的特質を理解し、一日の概量をつかむことができる。 ○食品の調理上の性質や基本的な調理法について理解することができる。 ○献立の条件や手順を理解することができる。 ○家庭や社会の一員として生活することができる。 ○身近な食品に関心を持ち、適切に選択することができる。 ○材料・調理用具を適切に準備し、安全に調理できる。 ○自分の食事の取り方を点検することができる。 ○中学生の1日分の献立を考えることができる。	定期テスト プリント課題の提出 行動観察 実技テスト

1 家庭科を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識や技術を習得し、これからの自分の生活を豊かにする。

・家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。

・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身につける。

・自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

・衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用ができるようになる。

・布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにすることができる。

・住居の基本的な働きを理解し、安全で環境に配慮した、生活ができるようになる。

・販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入および活用ができるようになる。

3 使用教材と持ち物

使用教材	教科書（東京書籍） A4ファイル(プリント) 技術・家庭ハンドノート 家庭分野 生活に役立つ小物	持ち物	教科書（東京書籍） A4ファイル(プリント) 技術・家庭ハンドノート 家庭分野
------	---	-----	---

4 学習の取り組み方

学習の進め方	<確かな学力を身につけるには> ○学習課題をしっかりとらえ、興味を持って取り組む。 ○わからないところや、できないところを明確にして、学習に取り組む。 ○何事にもじっくり考えて、自分にできる精一杯の工夫をする。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なことにも挑戦する。 ○実習などは、安全に気をつけて取り組む。 ○学習したことを家でも実施し、日常生活に取り入れる。 ○粘り強く学習に取り組む態度。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え自らの学習を調整する。 <期末テスト> ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておく。 ○期末テスト終了後に間違った問題の確認をしっかりとる。
学習上の注意等	○週1の時間しかないので、チャイムが鳴る前に着席し、教科書を開けて前時の復習をしている。 ○学習に必要な物を忘れないこと。 ○実習においては、目的・方法をよく理解し安全に気をつけ、工夫して取り組む。 ○グループで行うときは、仕事を分担し、能率良く協力する。 ○実習の時の準備・後かたづけなど特別教室の使い方に気をつける。 ○発表を積極的に行う。 ○提出物は期限日を守ること。

5 1年間の学習計画

学期	月	単元計画	試験
前期	4	衣服の選択と手入れ ・ どうして衣服を着るの だろう ・ 私らしさとT.P.O. ・ 日本の衣文化	前期期末テスト
	5	・ 衣服計画と必要な衣服 の選択 ・ 衣服の手入れ	
	6	布を使ったものの製作 ・ 裁縫に必要な道具の確認 ・ 基礎初縫いの確認	
	7	・ 布の特徴を理解する。 ・ アイロンのかけ方	
後期	9		学年末テスト
	10	私たちの消費生活 ・ 消費者としての自覚 ・ 購入方法と支払い方法 ・ 計画的な金銭の管理	
	11	・ 消費者トラブルとその対策 ・ 意思決定のプロセス	
	12	住まいの役割と安全な住まい方 ・ もしも住まいがなかったら ・ 住まいと気候風土の関わり ・ 健康で快適な室内環境 ・ 家族の住まいを安全・ 安心に ・ 災害への対策	

6 評価について

評価の観点		評価の方法
主体的に学習に取り組む態度	○衣服と社会生活との関わりについて関心を持つことができる。 ○消費者とし自覚を持ち自分の消費生活に関心をもつことができる。 ○作品を意欲的に製作することができる。 ○粘り強く学習に取り組むことができる。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整することができる。	行動観察 プリント 課題の提出
	思考・判断・表現 ○目的に応じた着用や個性を生かした着用について考え工夫することができる。 ○製作作業について課題を持ち自分なりの工夫をしたり、新たな方法を考えることができる。 ○消費生活の問題を見つけその解決のために工夫することができる。 ○家族の安全を考えた住まいを工夫できる。	行動観察 作品提出 課題の提出
知識・技能	○衣生活・消費生活について基礎的な知識を理解することができる。 ○実習に関する基礎的な知識を理解することができる。	定期テスト 作品提出 製作時の行動観察
	○目的に応じた着用や個性を生かす着用を考えることができる。 ○安全に能率良く製作することができる。 ○消費生活に必要な情報を読み取り選択することができる。 ○環境に配慮した生活を実践できる。	

1 家庭科を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識や技術を習得し、これからの自分の生活を豊かにする。

・家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。

・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身につける。

・自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

・自分の成長や生活は、家族や身近な人びとに支えられてきたことに気づく。

・幼児の成長と家族の役割について理解し幼児への関心を深めることができる。

・実際に幼児と触れ合う保育体験を通して学習してきた幼児の発達を確認する。

また、幼児との触れ合いやかかわり方を工夫し喜びを実感することができる。

・販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入および活用ができるようになる。

3 使用教材と持ち物

使用教材	教科書（東京書籍） A4ファイル（プリント） 技術・家庭ハンドノート 家庭分野 手作り絵本	持ち物	教科書 A4ファイル 技術・家庭ハンドノート 家庭分野
------	--	-----	-----------------------------------

4 学習の取り組み方

学習の進め方	<確かな学力を身につけるには> ○学習課題をしっかりとらえ、興味を持って取り組む。 ○わからないところや、できないところを明確にして、学習に取り組む。 ○何事にもじっくり考えて、自分にできる精一杯の工夫をする。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なことにも挑戦する。 ○学習したことを、家でも実施したり、日常生活でも興味を持って生活する。 ○実習には積極的に取り組む。 ○粘り強く学習に取り組む。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整する。 <期末テスト> ○範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておく。 ○期末テスト終了後に間違った問題の確認をしっかりとる。
学習上の注意等	○隔週1の時間しかないので、チャイムが鳴る前に着席し、教科書を開けて前時の復習をしている。 ○学習に必要な物を忘れないこと。 ○グループで行うときは、仕事を分担し、能率良く協力する。 ○発表や挙手を積極的に行う。 ○提出物は期限までに提出する。 ○保育体験においては安全に配慮しながら幼児と積極的に触れ合う。

5 1年間の学習計画

学期	月	単元計画	試験
前期	4	幼児期ってどんな時代 幼い頃を振り返る	前期期末テスト
	5	幼児の成長 (体の発達) (心の発達) ・ 幼児へのことばがけ ・ 生活習慣を身につける	
	6	幼児の成長と遊び	
	7	保育体験に持参する絵本を各自が製作する。	
	9	保育体験に向けての準備 ・ 製作した絵本を学級で、互いに披露。	
後期	10	・ 幼児との交流 幼児との関わりかた	確認学年末テスト
	11	・ 保育所や幼稚園に行ってみよう (保育実習)	
		・ 保育体験の振り返り ・ わたしと家庭生活 ・ 家庭のはたらき	
	12	・ 幼児の食事とおやつ	
	1	消費生活 ・ 生活に必要なもの	
	2	・ 商品の選択と購入 ・ 販売方法と支払い方法	
	3	・ 消費生活とトラブル ・ 消費者の権利と責任	

6 評価について

評価の観点		評価の方法
主体的に学習に取り組む態度	○自分の成長を振り返り家族や家庭の機能について関心をもつことができる。 ○幼児の成長や家族の役割について関心をもつことができる。 ○保育実習で積極的に幼児と関わるができる。 ○粘り強く学習に取り組むことができる。 ○自分の学習状況を把握し、学習の進め方について考え、自らの学習を調整することができる。	行動観察 挙手・発表 プリント課題の提出
思考・判断・表現	○幼児や家族の気持ちを考え、工夫した言葉がけができる。 ○おもちゃ作りにおいて、幼児の発達や興味を考えて工夫することができる。	行動観察 プリント課題の提出
知識・理解	○幼児の発達や家族・家庭について基礎的な知識を理解することができる。 ○幼児の心身の発達に応じたおもちゃを製作することができる。 ○幼児と一緒に安全に配慮して関わる事ができた。	定期テスト プリント課題の提出 行動観察